

日本精化(株)加古川東工場

環境保全対策実施報告書

1. 環境保全対策実施状況（令和4年度）

(1) 大気汚染に係る対策

推進の内容	実施の成果
★ ①ボイラーの適正な燃焼管理	① 日常点検、定期整備及び2ヶ月毎の排ガス測定による適正な維持管理を行い、窒素酸化物排出量の協定値を遵守しました。 また、効率的な運転（FTボイラー煙管内の堆積物除去による熱交換効率向上と、排ガス中の酸素濃度を5%に調整や、還流ボイラーとの併用運転時のFTボイラーの連続ブロー量低位安定化により、ボイラー効率を昨年の86.8%（初年度：80.2%）から、89.7%/年に向上。）により燃料消費を低減し大気汚染防止を推進しました。 ② 熱媒ボイラー2機(7.1)の燃料転換より（A重油⇒都市ガス）CO2排出量約12.9t/年削減となりました。 （2022年10月より稼働） （写真①）
② 定期パトロール実施によるスチームロス削減	② 定期パトロールにより25箇所の不良箇所を発見し改修しました。
③ スチーム使用量削減による燃料使用量の削減	③ 25箇所の不良トラップ交換による放熱ロスの削減により、17.3千m ³ の都市ガス使用量を削減し、CO ₂ 排出量を38.8t/年削減致しました。

(写真①)



(ア) FHP 熱媒ボイラー



(イ) WJP 熱媒ボイラー

(2) 騒音、振動に係る対策

推進の内容	実施の成果
①ポンプ・モーター等の定期点検整備実施	①ポンプ・モーターの定期点検整備を行い、装置が常に良好な状態で稼働する様注力し騒音の協定値を遵守しました。
②定期騒音測定実施による保全維持	②協定に基づく定期的な騒音測定を行い、場内外での騒音レベルを把握し、安定的な保全維持ができました。

(3) 悪臭に係る対策

推進の内容	実施の成果
①定期的悪臭測定実施による保全維持	①1回/月の外部分析による管理を継続し良好な状態を確認しています。
②定期的パトロール実施による臭気管理維持	②1回/日の臭気パトロールを継続して実行しました。社内管理基準（臭気度数）に注力し状況把握と早期対応に努めました。
★ ③廃水処理場の安定稼働による臭気抑制	<p>③廃水処理施設の安定的な稼働に努め、臭気発生抑制に努めました。</p> <p>④廃水処理施設に臭気センサーの設置(ア)及び消泡設備(イ)の強化を行い、臭気発生抑制に努めました。</p> <p style="text-align: right;">(写真②)</p>

(写真②)



(ア) 臭気センサー



(イ) 消泡設備強化

(4) 産業廃棄物に係る対策

推進の内容	実施の成果
①法令順守及び適正処理の徹底	①管理システム(契約書及び許可書管理、Excelによる廃棄物情報の管理)を構築し、マニュアル管理の効率的化と精度向上を図りました。また、産業廃棄物置場の適正保管に注力し法令を順守しました。
★ ②リサイクル(再資源化・再利用)及び有価物化の推進	②廃棄物の再資源化及び再利用化を推進し廃棄物の排出量削減を図りました。廃棄物1,015.0 tと廃溶剤487.6 tの再資源化/再利用化を実現いたしました。
③自社処理活動推進による外部への廃水排出量削減	③自社廃水処理設備にて処理可能な工程廃水約456.9 tを処理し、廃棄物廃水の排出量を削減しました。

(5) 緑化に係る対策

推進の内容	実施の成果
①『緑の募金』自販機設置による緑化推進	①『緑の募金』活動により、2008年1月から2023年3月までの累計で、杉苗木1,935本相当、CO ₂ 換算27.09 tの吸収効果が得られました。
②事務用品に関わるグリーン購入	②事業所内で使用する事務用品の積極的なグリーン購入を実行しました。

(6) 地域連絡会

推進の内容	実施の成果
① 地域住民代表との定期的な意見、 情報交換	① 地域住民代表者と年2回の定期的な意見 及び情報交換を実施し、円滑なコミュニケーショ ン構築に努めました。
② 近隣企業との周辺地域の合同清掃 参加	② 年1回の近隣企業との周辺地域の合同清 掃に関して、本年度は11月の実施予定 でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響 を鑑み中止となりました。なお、美化 週間(任意参加活動)として、11/25に 自主実施しました。

(7) その他

推進の内容	実施の成果
① ISO14001の維持	① 2021.5月に更新審査を終了し、環境マネ ジメントシステム運用により法順守と自主的な 環境負荷低減に努めています。
② 内部監査	② 定期的な内部監査を行い、適切な企業活 動の推進を実行しました。
③ 燃料削減活動の更なる推進	③ 生産に見合ったボイラーの切替え運 転を行い、効率的な生産活動により不必要な 燃料の消費を削減しました。
④ 効率的な工場稼働の推進	④ 効率的な設備の導入を推進しました。 ア. 熱媒ボイラーを更新し、送液配管を短縮 する事で放熱ロスを軽減でき、1.8千m ³ の都市ガス使用量を削減し、CO ₂ 排出量 を4.0t/年削減致しました。 (写真③-ア)
⑤ 省エネルギー活動の推進	イ. 防爆型屋外灯及びその他電灯のLED化 ※LED照明への積極的な更新により、 年間42千Kwhの電力と14.6tのCO ₂ を 削減しました。 (写真③-イ) ウ. 2022年5月から再生可能エネルギー100%の電力 へ切替えを行い約3,700t/年のCO ₂ 削減を 致しました。

(写真③)



(ア) 熱媒ボイラー更新



(イ) 防爆型屋外灯のLED化

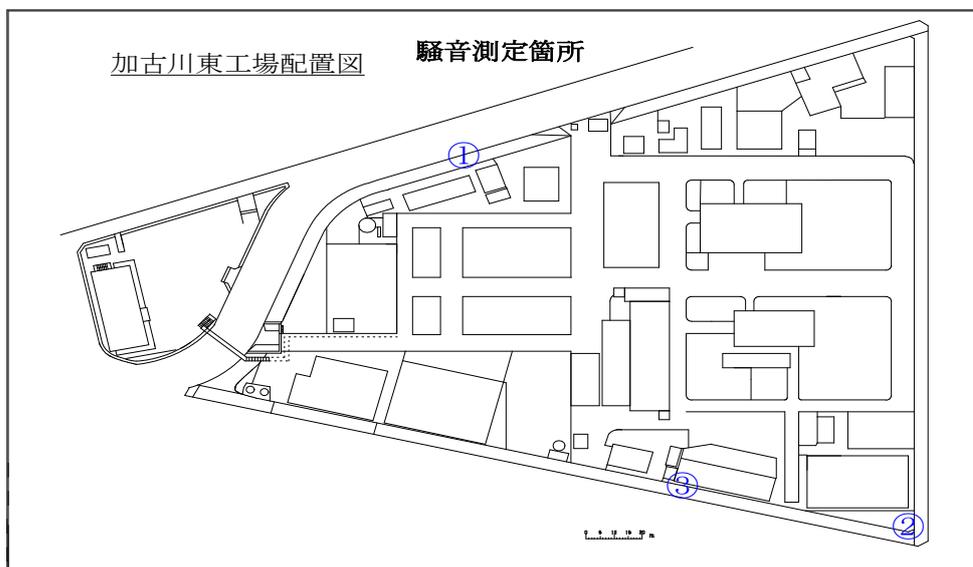
2. 協定値と実績値の比較

(1) 大気関係

(実績値：最大値または年間総排出量)

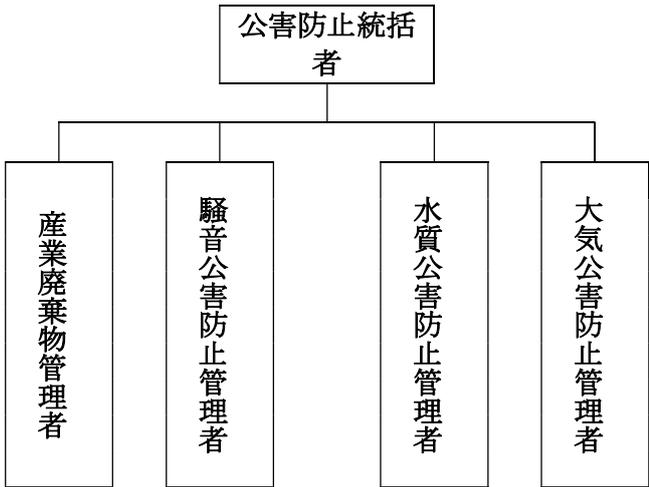
項	目	協定値	実績値
窒素酸化物排出量	(Nm ³ /時)	3.6	0.9
	(t/年)	25.7	5.9

3. 事業所地図及び騒音測定地点



4. 環境保全活動

(1) 令和5年度基本方針

項目	内容
基本方針	<p>①当社に係る環境関連法令を正しく理解・遵守し、当社内外の環境に著しい影響を及ぼさない生産活動を行なう。</p> <p>②環境に負荷となる化学物質の使用を低減し、持続可能に配慮した原料を使用することにより環境にやさしい製品を提供する。</p> <p>③具体的な対象、目標、期間を定め、計画的に省エネルギー活動、省資源活動、および産業廃棄物発生量の削減活動を行う。</p> <p>④悪臭（排水臭、原料臭、生産活動に伴う不快臭）の発生抑制および拡散低減を行い、地域社会と共生する。</p>
組織体制	<p>(公害防止組織に準ずる)</p>  <pre>graph TD; A[公害防止統括者] --- B[産業廃棄物管理者]; A --- C[騒音公害防止管理者]; A --- D[水質公害防止管理者]; A --- E[大気公害防止管理者];</pre>

(2) 令和5年度環境保全活動計画

環境保全活動	目標	目標達成のための計画、方策
自動車公害対策	NOx排出量削減	①自動車通勤者の削減推進 ②社用車及び入場車輛のアイドリングストップ活動の推進 ③ハイブリッド社用車の導入
化学物質対策	環境法令で規制されている化学物質の使用量及び大気排出量の削減	①PRTR法による化学物質排出量の把握
エネルギー対策 (地球温暖化に係る対策)	燃料使用量削減及び電力使用量削減	①燃料削減活動の更なる推進 ②効率的な工場稼働の推進 ③省エネルギー活動の推進
廃棄物対策	産業廃棄物排出量の削減および分別強化による有価物化の推進	①リサイクル化（再資源・再利用）及び有価物化の推進 ②自社処理活動推進による外部への廃水排出量削減
不法投棄に係る対策	最終処分先の再確認	①廃棄物業者への査察強化と manifests 管理及び許可証期限管理の徹底 ②電子 manifests の円滑運用
緑化に係る対策	森林植樹活動の推進と緑地、樹木の維持管理	①『緑の募金』自販機設置による緑化推進 ②工場周辺低木の維持管理
グリーン購入	グリーン購入の推進	①事務用品のグリーン購入推進
環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステム(EMS)に則った活動推進	①ISO14001の維持 ②内部監査 ③EMS委員会の開催
環境教育	環境保全教育の推進	①環境保全（EMS含む）に関する教育 ②週間環境整備活動実施による環境意識高揚
地域社会への参画	地域社会との相互理解強化と環境保全活動への参加	①地域住民代表者との定期的な意見・情報交換 ②近隣企業との周辺地域の合同清掃参加
環境コミュニケーション	環境情報の開示	①加古川市ホームページでの環境報告書の公開
周辺環境に影響を与えるおそれのある事故等発生時の地元への広報等	加古川市作成の広報等対応マニュアル遵守と迅速な広報対応	①加古川市作成の広報等対応マニュアルに沿った対応 ②ホームページや説明会による迅速な広報対応